

第1章 指針策定の目的

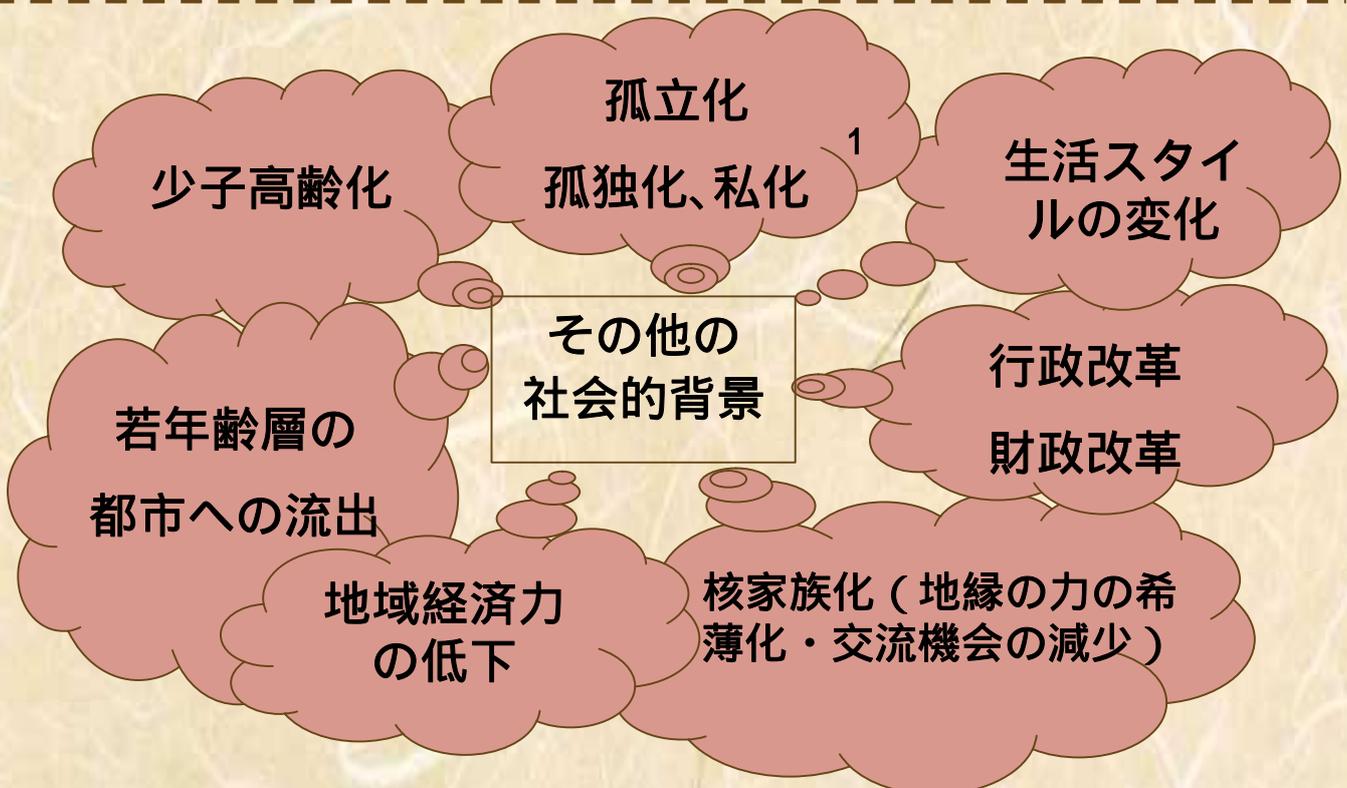
社会的背景

何か変わってきていませんか？あなたを取り巻く環境が・・・

《地方分権の推進》

地方分権とは、これまで国が持っていた権限や仕事の一部を、都道府県や市町村に移すことで、国の指示を受けずに、独自の判断で仕事が行えることです。

これらが推進され地方自治の本来の趣旨である住民自治(地域の運営は、その地域住民の意思によって行われるべきという概念です。)の観点から自己決定(地域の住民が自分たちで決定)し、自己責任(その責任も自分たちが負う)というように、世の中が変わってきています。

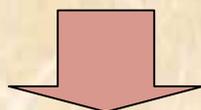


このような問題が深刻さを増している現状があります。

1 私化・・・個人の私的欲求を志向すること。

社会的背景から見えてくるもの

市民が生活する中でたくさんの地域課題に直面し、多くの迅速なサービスが求められています。



しかし、行政は、公平性・平等性を確保する必要があり、対応できない課題も発生しています。

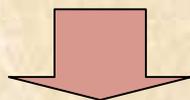
これらを解決するために



(新たなサービスの展開や業務を担う団体また企業にも求められている社会的貢献)

新しい公共

新しい公共を創るために……



協働

市民活動団体、市民が行政と共に責任と役割分担を相互に自覚し、対等の関係で共通の目的を達成するために自由な発想のもと活動することが必要です。



市民の皆さん一人ひとりが、できることから行動に移していくことが必要です。